

第6回門真市魅力ある教育づくり審議会 各部会での意見（まとめ）

〇つながりのある教育の創造部会での意見

- ・学校ではいじめはあるものだという前提で先生方は対応しており、発見に努めているが、LINEなどのSNSによるトラブルも起こっており、なかなか学校の中では見抜けなくなっている。
- ・子育てにおいて、保護者の都合で簡単に子どもを休ませるといったようなことがあり、問題である。
- ・子どもの忍耐とか耐性、コミュニケーション能力を含めて少し弱い面があったり、逆に自己中心的な面が見られるので、子どもの心にもきちんと寄り添っていく必要がある。
- ・いじめは防止が大切である。
- ・今年出された国の指針をもとにして、門真市独自の「いじめの防止指針」を作成するのがよい。その際には国がいじめ防止の基本方針を示しているように専門家や地域の方や法律に詳しい方など、多角的・多方面からの視点で、いじめ防止や不登校対策などに資するような委員会を構成して、門真市の現状に合ったいじめ防止の対策などを考えていくのも有効である。
- ・不登校や引きこもりになった子どもたちにとって最終的に学校への復帰を援助する適応指導教室「かがやき」ではハードルが高い。
- ・「外の空気」というのがひとつのキーワードになる。学校への復帰を目指すというハードルではなく、そういう子どもたちが家から一歩外に出て、「外の空気」を吸うことができるそんな気軽な組織運営、居場所とか心の拠り所というハードルを低くした「かがやき」の在り方を検討されてはどうか。
- ・学生のボランティアとかそういうところにお金をかけて、より充実させて、きめ細やかに不登校の子どもたちの対策を練っていただきたい。

第6回門真市魅力ある教育づくり審議会 各部会での意見（まとめ）

○子どもの学ぶ意欲向上部会での意見

- ・「子どもの生活実態調査」からひとり親のしんどさや親や先生に余裕がないことが分かった。
- ・子どもは相談に行くところがなかなか無く、カウンセラーも予約である。友達に相談をするが、なかなか親身になってもらえないので不登校も多くなっている。
- ・子どもの相談をしっかりと受け止める存在が必要なのではないのか。
- ・大学生も子どもの相談を受け止めるそういった存在に成り得るのではないのか。但し、ゆとりのない大学生もいるので、組織的に門真出身の大学生が集まる場を作っていないといけない。
- ・特に子どもの進学意欲を高めるための取組として、中学校2年生で進学フェスタをしている。
- ・大学進学モデルがないので、大学とはどういったところなのかとか大学生はどんな存在であるのかというところの接触機会を増やす必要がある。但し、一先生の取組でもっているところがあるので、教育委員会を中心とした市全体のサポートで大学を身近に感じることができるよう取組が必要である。
- ・奨学金については制度的な課題が出てきている。
例えば、住民票を異動させた場合には奨学金制度が利用できなくなること。収入基準が中学校3年生時点でのものであり、その後家庭の経済状況が悪化して奨学金が必要となったとしても、高校在学途中からの申請ができないことなど。
- ・奨学金制度について、申請者の数が減少していることから、選考方法の見直しを行ったり、学校の提供する情報と子どもや家庭が必要とする情報の違いを整理して、ニーズにあった情報を提供できるようにしたりするなど、制度の課題解決に向けた検討を実施していくことが必要である。